



写真左から、トリスナさん、タパさん、カルキさん。
お店はほぼ満席で、カルキさんには多忙な時間を縫ってお話をうかがった。

.....
日本(ニッポ)で暮らすという(一)
タパ・ラジエスさん
カトリ・トリスナさん
カルキ・ラビン・クマルさん
.....

「ネパリーチューロ」は、杉並区永福にあるネパール料理屋だ。この店は、地元の若い母親たちをはじめとして、口コミで広まっているようだ。その日、店内をのぞくと満席だった。取材を兼ねて来たことを伝えると、2階の席に通された。ほぼ同時に、外国人の男女がやってきた。今回、取材をお願いしたタパさんとトリスナさん夫妻だった。

○日本は安全で暮らしやすい国

タパさん・トリスナさん夫妻は中野区在住。タパさんは来日11年目で、最初は語学学校に通いながらファストフード店で働いていた。仕事をしたり、日本人の同僚と交流する中で、言葉や暮らし方を身に付けた。トリスナさんは、結婚を機に2年半前に来日。保育園で非常勤として半年ほど働いた経験がある。日本語のヒアリングはできるが、話すときはタパさんに通訳してもらっていた。

タパさんが来日した2005年頃、在日ネパール人は5000人程度だったが、2008年頃から学生が増え、現在

は4万8000人ほどいるそうだ。日本で生まれる子どもも増えたため、杉並区にネパール人学校ができた。将来は高校まで開設される計画だという。

タパさんらは、同じ地域に住むネパール人とは交流があるそうだが、相談や交流イベントを行うようなグループは存在しないという。子どものいる人は、学校がその機能を果たしていると思われる。

「日本は安全だし、差別を感じることもあまりありません。日本で暮らしてきたいと思っている」とタパさん。日本の課題を聞くと、「日本人はきまじめ。もう少し柔軟であればいいと思います」とトリスナさんが答える。現在、抱えている重い問題はないようだ。

○日本人と同じラインに立てれば

外国人はもつと頑張る

ネパリーチューロのオーナー、カルキさんに、日本で暮らすことの課題について尋ねた。

「外国人のお店にも、投資や融資を考えてくれたらと思います。実績があっても外国人の場合は厳しい。また、外国人にはビザの更新など、やらねばならないことがあるうえに、日本人と同じレベルを要求されます。従業員全員が社会保険に入ることなど、日本の中小企業でも難しいことを、我々がやるのはとても大変



ノンノンさん。
「人がキレイになって喜ぶのを見るのが好き」というノンノンさんから、
自然な笑みがこぼれる。

は、「美肌や化粧と違って、ネイルは本人がいつでも見られるから。お客様がうれしそうに眺めているのを見るのが、とても好きなんです」と、ノンノンさんは笑う。

思い切った決断のおかげで、体調も良くなり、ネイルリストになることができた。「でも、仕事を始めてからしばらくは、先輩を見ながら学ぶ毎日。大変でした」と言うが、今は、お客様の希望を聞いて的確なアドバイスをする、頼れるネイルリストという風情だ。

○ネイルを施すことは難民の励みに

日本での暮らしを聞いた。在日ミャンマー人のコミュニティについては、週1度、集まる機会があるそうだ。「子どもたちには、ミャンマーの言葉や文化を学んでほしいと思っています。仕事に関しては、お客様に言葉の使い方を教えてもらったり、家族のことを気にかけてもらったりと、優しくしていただいています。このお店でネイルを施していただくことは、難民の支援につながります。来店くださる方々の存在は、多くの難民にとって励みになっています」

将来について尋ねると「体力的にきつくなったらネイルを人に教えたい」とのこと。「プロになるには時間がかかるし、その間の収入が減ってしまう。だから、

プロ養成だけでなく、自分や友だちが楽しむためのネイル・レッスンもしたいですね」

○大切なのは「知る」こと

ボランティアや市民活動は、まず社会の課題を「知る」ことから始まる。アルーシャは、難民について知る一つの入口だ。また、難民支援をテーマにしているNPO・NGOでも、チャリティウォークや料理講座など、楽しみながら知ることができる企画を催している。そこで知り合う人は、難民を代表しているわけではない。難民の人々の国籍や、現在の状況などは、千差万別である。しかし、「まず1人を知り、話してみる」ことが大切なのではないだろうか。

アルーシャでは、4月17日から1か月の売り上げの10%を、熊本地震の支援に充てることを決めた。ノンノンさんは言う。「困っている方々のお役に立ちたいのです。お客様をキレイにして、少しでも貢献したいと思っています」

エチオピア人と日本人の

架け橋になりたい

アベベ・サレシラシエ・アマレさん

(NPO法人アディアババ・エチオピア協会)

Arusha SALARY ENGLISH CONSULTING SHOPPING

キレイな笑顔は社会貢献
ネイリストは外国人？

ネイルデザイン	¥3,000	ネイルデザイン	¥4,000
ネイルアート	¥2,000	ネイルアート	¥3,000
ネイルケア	¥1,000	ネイルケア	¥1,500

ポイント制でさらにお得!

www.arusha.co.jp



落ち着ける空間のアルーシャ店内とチラシ。

葛飾区の四ツ木という駅を降り、地図に従ってNPO法人アディアババ・エチオピア協会を目指す。この辺りは、下町風情があり、小さな商店や古い家、アパートなども多い。同協会の事務所は「ゆたか荘105号」。迎えてくれたのはアベべさん。同協会の理事である。

○葛飾区に多いエチオピア人

日本にいるエチオピア人は約420人で、関東に200人、うち都内には120人、そしてその半数が葛飾区に住む。物件が安いこと、下請けの工場が多く職に就きやすいことがその理由で、さらに、葛飾にいる親戚や知り合いをたどってやってくる。

NPO法人を立ち上げた理由をうかがった。「もともとエチオピア人のコミュニティはありましたが、目的を持たないサークルのような集まりでした。ある日、エチオピア人が交通事故に遭って弁護士が必要になり、こういうときに組織があった方がいいと考え、設立しました」

現在のおもな活動は、労働・法律相談、教育、交流。「相談は、住居や医療に関することも多いです。病院の付き添いもあります。今日もエチオピア人の赤ちゃんが生まれたので、病院に行ってきたのですよ」と、アベべさんはスマートフォンで撮影した写真を見ながら、我が

子を見るかのように目を細める。「教育活動としては、事務所で日本語教室を開催しています。語学だけでなく、日本の文化やごみの扱い方などのルールについても教えます。交流事業としては、年3回、文化交流会を開催しています。ほかに、地域のイベントにも参加したりしています」。役員5人は全員、無報酬。運営資金はおもに寄付でまかなっている。

○エチオピア人と日本人は似ている

日本で暮らすことのメリット・デメリットを尋ねた。「日本は安全で暮らしやすいです。エチオピアも凶悪犯罪は少ないものの、盗難やスリといった軽犯罪は日本よりも多い。また、エチオピアはアフリカ最古の独立国と言われています。外国の文化があまり入っていないため、オープンマインドではなく、メンタリテイが日本人と似ていると思います。差別を感じることも少ないですね。欧米にいるエチオピア人は、もっと差別にさらされています」

課題としては、言葉と仕事を挙げる。難民は、来日して半年から9か月ほどは働くことが許されない。その期間をいかに過ごすかが問題である。難民支援のNGOや教会につなぎ、生活のサポートはそこでもらい、同協会では職に就くまでの期間に日本語を教えている。仕事